慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	平和克復と欧米経済界（下）
Sub Title	
Author	高城, 仙次郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.4 (1919. 4) ,p.527(85)- 534(92)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190400-0085

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

くの金融を得らるゝは疑なきも、一朝今回の如く財界の變動期に際會せんか、何れの銀行に對しても同程度に淺き取引關係を有せしに止まりしとすれば、多くの銀行は何等顧慮せず貸出引締めの手段に出づべく、茲に至りて取引者は非常の窮境に陷らざるを得ず。然るに若し有力なる一二の取引銀行を有し假令一時多額の融通を必要とする場合に於ては他の銀行より借入るゝことありとするも、主として此の銀行と取引し而かも双方に於て充分なる了解の存するに於ては、今日の如き場合銀行の資力の及ぶ限りの援助を受け得るなるべし。故にかくの如き意味に於て商工業者は常に密接なる取引關係を持せる了解ある後援銀行を有し置かざるべからず。世には銀行に對する借入を返濟する爲に、更に他の新規銀行より借入れを爲しかくして銀行に對する借替を爲し姑息的手段を執りつゝあるを見るもかくの如きは平生取引に了解なきを示せるものにして我國銀行取引の缺陷なり。故に商工業者は取引銀行數を成可く限定するを取引改善の必要條件とす。尤も我國銀行の資力大ならざる爲め常に巨額の資金融通を必要とする商工業者に在りては、一行又は二行の銀行のみに其の取引を限定するに於ては實際上所要の金融を得る能はざる場合の如き取引銀行數を增加するは止むを得ざることなるべきも、斯くの如き場合に於ては同時に其の資産狀態を詳にし、數行の取引銀行をして一團となりて監督指導の任に當らしむるやう努めざるべからず。

要するに我國銀行取引改善の根本は銀行取引をして成可く虛僞の狀態より脫して眞面目なる且相互了解ある徹底的の取引たらしむるに在りて、銀行は其の自己資本金の增加を圖り以て其の營業上の基礎を鞏固にし、更に進んで銀行の合同を行ひて營業資力の充實を期すると共に、多數銀行競爭の結果徒に高利の預金を吸收するより起る貸出利率の制限より脫するに努めざるべからざるは勿論なるも、此等は別箇の問題とするも、從來の如き淺薄なる表面的の取引は成可く之を避け、假令充分徹底的の域に達せざる迄も相互了解ある取引を爲すにあり。即ち銀行業者は取引先の事業及び其の人物の如何を充分知悉すると共に、取引者も其の資產信用に就ては出來得る限り開放的態度を執り兩々相俟て健全なる銀行取引の發達を期するを得べきなり。

（大正八・二・一八日稿）

平和克復と歐米經濟界（下）

高城仙次郎

二　アンダーソン氏の戰後經濟論（承前）

七、資金の主なる供給國としての米國　戰後に於て要求せらるゝ巨額の資金は何國に依りて供給せらるゝであらうか。南北戰爭後に於て、北部諸州は、一方に於て、國內の資本家より資本の供給を仰ぎ、又他方に於て、英國、和蘭及び佛國よりも多額の資金を借入れた。然しながら、這次戰爭後に於ける融通資金は南北戰爭後よりも、相對的に云へば、遙かに缺乏して居る。今後歐洲交戰國に資金を供給し得る國としては日本南米諸國、歐洲の中立國等を擧ぐることを妨げないが、最大供給國は北米合衆國であらね

ばならぬ。米國人は益々消費を節約して、戰時中と同樣に資金の貸付又は投入を行ふ可きである。歐洲は米國に對して數億弗に上る利拂をせねばならぬのであるが故に、米國は少くとも是れ丈けは更に歐羅巴に貸付けねばならぬ。然しながら、實際には、米國は之よりも遙かに多額の資本を貸與するを要する。利子は今後低落す可きも、尙ほ戰前に比しては高率なる可きに由り、米國の資本家も此貸出の要求に應ずるであらうと思はれる。

八、戰後の歲出　平和克復後直ちに米國より多量の鋼鐵、機械、原料及び製造品等をば輸入し得る程度迄に歐洲舊交戰國の資力が急速に充實せられないかも知らないことを閑却してはならぬ。此懸念は杞憂に過ぎないではあらうが、豫じめ之に對して備へ置く必要はある。

景氣循環の研究者は、政府の買上は出來得る限り不景氣の際に纏めて之を行ひ、物價が騰貴し、勞働者が時間外の勞働に服しつゝある好景氣の際には、政府は貨物市場より撤退す可きであると說いて居る。此說は現下の狀態に適應せるものである。米國の中央政府、州廳及び都市は官衙の建築、鐵道の敷設、河川港灣の修築及び其他の事業に對する案を立て、若し失職者が多からざれば、其の實行を見合すも、失職者が多ければ、直ちに實施し得るの準備を整へ置く可きである。斯くの如き計畫は、之を發表する丈けでも、實業家に安心を與へ、不景氣の襲來と失業者の頻出とを未然に防止するの結果を呈するであらう。都市及び他の公共團體が不景氣の際に實行する一時的救濟事業は多少役にも立つが、同時に幾分弊害もある。之よりも、中央及び地方政廳が數ヶ年間に亘る常設的救濟事業を計畫し、不景氣の襲來する每に、普通の商取引機關を通じて、臨時の支出を行ふを得策とする。

九、資本家と勞働者との關係　物價の低落は賃銀の減率を伴ふものである。最近當局者の試みたる推算に據れば、米國に於て直接又は間接に戰爭と關係を有する事業或は職務に從事して居る者は千八百萬人餘に上つてゐる。此等の勞働者の中には、平和克復後に於ても、現在の職に止まり得る者が尠なくない。如何となれば、彼等の關係せる事業が戰時經營より平和經營に復歸するからである。然しながら、他の數百萬の人は一時職を失ふことになる。彼等の勞力に對する需用が全然ないと云ふのではないが、賃銀が低くならざるを得ないのである。此過渡期の勞働調節に對しては資本家並に勞働者共に穩健無私の態度を採るを要する。

然るに、勞働問題は、極端なる態度を採れる二個の團體が在る爲めに、解決が困難である。一方には、急進派の勞働者が露西亞のボルシエビキの主義に感化せられて、勞働條件の改善又は賃銀の增率よりは寧ろ產業組織の革命を齎らさんと努めて居り、又一方に於ては、一部の資本家は勞働組合に反對し、戰後に於ける勞働需給關係を利用して、彼等の所謂『勞働の淸算』なるものを實行せんとするかも測り知り難いのである。此『勞働の淸算』は賃銀の減率のみならず勞働組合の撲滅をも目的としてゐる。過去三年間に於て、勞働者は勞働需用の激增に乘じて、諸種工場をして勞働組合員のみを使用せしむるに成功した。而かも、勞働者は現在の賃銀率が到底維持し能はざるものなることを認めねばならぬ。同時に、實業家も亦、勞働組合の發達は永久的基礎を有するものなることを認容せなければならぬ。

要するに、勞働者及び資本家が、徒らに無益の爭議を事とせず、貨物生產額の增加の中に共通の利益を求むる方が得策である。製造業者の貨銀支拂能力が根本的には製造額に依りて定まるものなるは自明の理であるに拘らず、勞働者は必ずしも常に此事情を了解して居ない。彼等が一日若しくは一時間幾何として貨銀の支拂を受くる際には、上叙の關係が全然忘却せらるゝことがある。貨銀が仕事の出來高に應じて支拂はるゝ場合には、勞働者は生產額と貨銀の高低との間に於ける密接なる關係を了解することを得るならんも、而かも此際には、生產額が激增すれば、彼等の受けつゝある箇數拂貨銀が減率せらるゝに至ることを憂慮する。此不合理なる狀態を改善するには、勞働者をして工場の管理に多少與らしめ、生產額、勞働能率等の諸問題を考へしめなければならぬ。尤も、目下勞働者は能率增進の運動に對して頗る冷淡であるが、是れは其運動が雇主側より起つたものであるが故に外ならぬ。若し、勞働者が能率增進の手段の案出に關與し、其の利益に充分均霑することが出來る樣になれば、此運動は好結果を生ずるであらうと思はれる。

十、米國の商業政策　資本は鐵道、工場、家畜、商品、船舶等の有形物のみを謂ふのではない。如何となれば、實業家は秤に掛け又は物差にて計ることは出來ないが、而かも事業の經營に必要なる點に於て有形の資本に劣らざる無形の『暖廉』なるものをば資本の一部分と看做して居るからである。此暖廉と稱するものは諸種の取引關係、特許權、優秀なる經營の組織、賣品に對する消費者の信用、使用人の誠實、本國政府、其他商取引を有せる諸外國の政府、消費者、實業家並に銀行家との間に維持せる圓滿なる關係等を包含するのである。

戰爭は此意味に於ける資本の少なからざる部分を破壞した。味方同志の國々の實業家及び銀行家の間には取引の新關係が生じた爲め、多少此資本の減退が補はれては居るが、敵國と敵國との間には此無形の資本は大部分消滅して居るのであるが故に、今後之が補充に努めねばならぬ。此目的を達する爲め、米國は聯合國に對して寬容なる態度を採るものであることを明かにする必要がある。換言すれば、米國は其の巨額の正貨、旺盛なる製造力を有する其の工場、並に新たに建造せる其の夥多の船舶を以て、聯合國をば世界の市場より驅逐するの意志を有して居らぬことを了解せしめねばならぬ。諸外國が貨物を製產し之を輸出することが出來ねば、米國の貨物を購買することも、又米國に對する債務の利子を支拂ふことも不可能となるではないか從つて、至極低級の利己主義を標準として考へても、聯合國の產業能力と海外販路との復活に助力を與へるは米國自身の利益である。

殊に、戰後に於ては、正貨爭奪の出現を防止しなければならぬ。若し或國が正貨の必要を感じ、之を獲得するに要する費用を吝しまなければ、米國より之を輸入するを得ることを知らしめねばならぬ。換言すれば、米國は金の輸出に對して何等の制限を加ふることを避くるを要する。若し、各國の銀行家が正貨の缺乏を憂ふるとすれば、貸出を控ゆ可ければ、恐慌を惹起するに至るかも知れない。合理的に運用しさへすれば、戰後に於て金の缺乏を憂ふる必要はない。殊に米國に於て然りである。米國は既に巨額の正貨を有し、且つ今後對外債權に對する利子の支拂を受くるの地位に在るのであるから、戰後に於ては寧ろ正貨の過剩を來たすやも測り難

い。

聯合國以外に、獨逸をも復活せしめねばならぬ。斯く云へばとて、決して獨逸を愛するからでもなく、又同國の受く可き刑罰を輕減せしめ度き希望がある譯でもない。獨逸が筆舌に盡し難き罪惡を犯したことは蔽ふ可からざる事實であつて、全世界が擧つて相當なる刑罰を之に加ふるを要求せるは當然のことである。然しながら、此刑罰が獨逸をして經濟的に無爲無能ならしむるの形式を以て加へらるゝは他國の利益でもなく、又獨逸の罪惡に對する公憤を癒和する爲めに絕體に必要ではない。吾人は獨逸をして波蘭、丁抹及び佛蘭西より曾て强奪したる領土を返附せしめねばならぬ。又、吾人は既に獨逸をして其の軍國主義を廢止せしめたのである。更に吾人は獨逸をして夫れを完濟する爲めには其の國民が數十年間全力を注がなければならぬ程の巨額の賠償金を支拂はしめねばならぬ。然しながら、同國をして此賠償金を滯りなく支拂はしむるには、吾人は獨逸の國民經濟を復活せしめねばならぬではないか。

加之、吾人は富める隣人が良顧客なるの一事を忘却してはならぬ。國際貿易額の大部分は資力の充實し、產業の發達せる富國と富國との間に行はれてゐる貿易ではないか。戰前に於ける獨英間又は獨佛間の貿易は此等の諸國に對しては他の小國又は半開國との間に將來發達せしめ得る見込ありたる海外取引よりは遙かに重要なるものであつた。假りに這次戰爭が引分に了つたとすれば、獨逸をして再び橫暴を逞しゆせざらしむる唯一の手段は或は經濟的ボイコットに依りて、同國を疲弊せしむるに在つたかも知れない。然しながら、獨逸は既に事實壓潰せられて居るではないか。又、吾人は米國及び他の聯合國側の外交家が戰勝を基礎として永久的平和を齎らすに成功することを期待するものである。而して一旦此平和克復の事業が完成されたる曉には、獨逸の繁榮が世界の繁榮を增進するものであることを忘却してはならぬ。國と國との間の商取引は雙方の國を利するものである。

戰爭前には、獨逸人は斯樣には考へず、世界の市場より他國を驅逐することに依りてのみ自國を富ますことを得ると思惟した。即ち、彼等は粗笨なる、否な誤れる經濟思想を有して居つたのである。惟ふに、生產と消費とは相伴つて膨脹し、各國は其の輸出を以て輸入品の代價を支拂ふものであるが故に、貨物供給の增加は他の貨物に對する需用の膨脹を意味すると同時に、夥多の國が同時に富み榮へることが出來、且つ總ての國は個々の國が富むに從ひ利益を受くるものである。

而かも、吾人は此點に就きて深甚の注意を加へねばならぬ。是れ迄の獨逸の商業政策は惡辣なものであつた。同國の銀行、汽船會社、製造工業家、商人、領事館員、政府の間諜等は獨逸政府の嚴重なる監督の下に、且つ背後には命令一下直ちに活動し得る陸海軍を備へて、正當なる商習慣の範圍を脫したる不正の手段を用ひて互に相協力して、外國市場より他國を驅逐せんと試みた。獨逸人にして貨物の品質の改良及び價格の引下に依りて世界市場に他國人と競爭することに滿足して居る限りは、吾人は獨逸の產業を恐れる必要がない。さりながら、若し同國の總ての經濟組織及び政治機關が團結協力して外國との競爭に當り、各產業が相互間に資力の融通を行ひ、甲產業の損失は乙產業の利益を以て之を補塡するの手段を採るとせば——若し獨逸にして將來斯くの如き政策を實行するとせば

米國、英國、佛國及び其他の諸國は之が對應策を講せねばならぬ。而かも、實際には、獨逸が此種の術策を弄し得る地位に再び立つが如きことはあるまいと思はれる。そは兎もあれ、獨逸に於ける商工業及び銀行をして獨逸政府の走狗たるの地位より脫却せしめ得る國柄に獨逸の政治組織を改造することを以て媾和の一要件とす可きである。

十一、商工業を政治家の權謀術數より解放せよ　這次戰爭の結果が若し英米佛の企業家をして各其の政府の手先たらしむること猶ほ戰前の獨逸に於けるが如くであるならば、吾人は無益に干戈を動かしたものであると云はざるを得ない。若し今次戰爭が世界各國間の商業取引上に軋轢を生せしめ且つ戰亂を惹起せしむるの傾向を有したる獨逸式の商業政策をば世界の諸國をして一般に採用せしむの結果を呈するとせば、吾人はデモクラシーと自由とを全世界に普及する爲めに戰爭をしたのであると云ふことは出來ない。商業は、正直に之を行へば、平和を確保するものであつて、戰爭を誘發するものではない。換言すれば、正直に行ふ商取引は商人と商人との間に於ける、又國と國との間に於ける關係を親密ならしめ、衝突の機會を減殺するものである。國際貿易が世界の平和を脅かすは商業が大規模に組織立てられ、權謀術數を弄する外交家及び軍國主義の政府に依りて手段として利用せらるゝときに限るものである。（終）

財政經濟評論

浪速次郎

一　豫算案の鵜呑　十億圓に上る巨額の經常及び臨時費を計上せる大正八年度の歲計豫算案が貴衆兩院を無事通過せることは現內閣の一大成功であつて、且つ政黨政治の首途を祝福するものであると云はざるを得ない。衆議院に於て反對黨が豫算編成上の缺陷を指摘論難するに止め、修正の動議を提出しなかつたのは、此豫算案の安產に依りて、我國最初の政黨內閣の權威を高め、將來政友憲政兩派の間に於て交互に內閣を組織し得るの氣運を促進せしめんとの下心より出でたものではあるまいか。勿論、憲政會が修正案を提出したとて、通過するの見込は無かつたのである。然しながら、下院に於て若し修正案が提出せられて、其の討議の爲めに、豫算案が政府黨の駈引に依りて辛ふじて通過したのであると云ふが如き印象を與へなば、或は上院に於ける審査が一層綿密に行はれ、其の結果として、一錢一厘の削減を加へられずして衆議院を通過せる豫算案が貴族院に於て修正せらるゝの非運に遭遇し、原內閣は是れが爲め其の面目を失し、切角實現せらんとして居る政黨政治が玆に一頓挫を來さんも測り知り難いのである。

又、保守的氣分の漲れる貴族院が我國最初の政黨內閣の編成提出せる最初の豫算案に對して何等修正を試みることなくして、無事平穩の中に之を通過せしめたるは、同案が下院にて殆んど全會一致にて通過したるの事情ある以外に、原內閣が、縱令純粹の政黨勢力を基礎とせるものであるとは云へ、大隈寺內兩內閣の失政の後